

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	子ども支援室みらい 益城教室		
○保護者評価実施期間	2026年 2月 9日		2026年 2月 27日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	19	(回答者数) 19
○従業者評価実施期間	2026年 2月 24日		2026年 2月 27日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	8	(回答者数) 8
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 3月 27日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	見通しを持って主体的に行動できるようするためのプログラム構成	<ul style="list-style-type: none"> 日々のスケジュールや先の活動計画を利用者と共有し、次に何をするかを理解させることで、自主的に動く力を養う。ニーズに応じて個別の対応も行う。 一週間継続して同じ集団活動を行うことで、一貫した経験を積むことができ、成長が見えやすくなる。 良い点や努力が見られる点などに対しては、しっかりと称賛し、達成感を味わうことで、次の目標や活動に向けてのモチベーションを高める。 	<ul style="list-style-type: none"> 利用者に自己決定の機会を増やし、責任感と主体性を育てる活動を積極的に取り入れたい。 家庭との連携を強化し、保護者も一緒にサポートプランを理解し、実行できるようにしたい。 定期的なフィードバックセッションを設け、利用者が自分の行動や学びの進捗を振り返る機会の提供を強化したい。
2	刺激を最小限に抑えた環境	<ul style="list-style-type: none"> パーティション等を使用し、個々のスペースが確保され、周囲からの視覚的な干渉を減らし、集中力を向上させる。 掲示物を最小限に抑えることで、必要に応じて掲示内容を更新しやすくなり、新しい情報や活動に柔軟に対応できる。 イラストやアイコンなどの指示カードを使用し、具体的な動作や行動を示すことで、利用者が視覚的に理解しやすくなる。 また、利用者の集中力を途切れさせる原因となる不要な声掛けを減少させる。 	<ul style="list-style-type: none"> 教室や活動スペースのデザインをシンプルに保ち、過剰な装飾を避けることで、視覚的な刺激を減らすことに継続して取り組む。 継続して教室や活動スペースを常に整理整頓し、すっきりとした環境を保つ。利用者にも整理整頓の習慣を身につけられるような取り組みを実施していきたい。 指示カードは、実施状況や利用者のニーズに応じて見直ししていきたい。
3	社会性や協調性を育むために他事業所と合同で運動やレクリエーション活動を行っている	<ul style="list-style-type: none"> 新しい友達を作ったり、多様な価値観を学んだりすることができるように他事業所の利用者と交流する機会を設けている。 チームでの活動を通じて、協力や助け合いの重要性を実感する機会を設定している。 運動やレクリエーション活動を通じて、心身のリフレッシュが図れ、ストレスの発散にも繋げている。 	<ul style="list-style-type: none"> 利用者がさまざまなスキルを学ぶ機会を増やせるように交流アクティビティの多様化を行いたい。 今後の活動に反映させられるように、活動の後にフィードバックセッションを設け、利用者がどのように感じたか、何を学んだかを共有する場を作ることを強化したい。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	事業所が広くないので、レイアウトの工夫が必要。	<ul style="list-style-type: none"> 利用者が安全に過ごせるように動線を確保するために、机や椅子の出し入れが発生し、業務効率が落ちてしまう。 事業所内のスペースが限られているため、広く使う遊びをすることが難しい。 	<ul style="list-style-type: none"> 一つのスペースを複数の目的で使用できるようにすることで、スペースの有効活用が図る。 必要な道具や教材を整理整頓しやすいように、収納スペースを確保する工夫が求められる。 事業所内だけでなく、近隣の公園や体育館などの外部施設を利用することで、限られたスペースを補う。
2	ありがたいことに、利用希望者の方が多いが、退会者も少なく、支援が必要だと思われる子どもさん達にご利用いただけない事。	<ul style="list-style-type: none"> 早期療育の大切さを知っていただき、年齢が低い時から支援させていただける様に周知活動を行っていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分らしく「できた」を重ねていき、自分のことが好きになる場所となれるように、『一人ひとりのきらりと光る個性を生かし、ありがとうの言葉と笑顔あふれる社会の実現に貢献』できるように、努めていく。
3	地域の他のこどもと活動する機会が少ない。	<ul style="list-style-type: none"> 事業所として、地域のこどもに対しての活動との接点を作れていない。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域のこども対象事業と接点を作っていく。

公表

保護者等からの事業所評価の集計結果

事業所名		子ども支援室みらい 益城教室		公表日		2026年 3月 27日		利用児童数		2026年 3月 6日		回収数 19	
		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見		ご意見を踏まえた対応				
環境・ 体制 整備	1	こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	19				〇一人一人、隣ともぶつからないくらい、スペースがある。 〇活動する場所が区切られていてこどもが集中しやすいと思います。	活動場所の明確な区分けを継続し、お子様一人ひとりがのびのびと、かつ集中して過ごせる環境を維持します。					
	2	職員の配置数は適切であると思いますか。	19				〇法令で決められている人数で、一人一人に目配りができると感じる 〇こどもの困ったにすぐ対応して頂いて助かっています。	法令遵守はもちろんのこと、お子様の小さな変化や「困り感」に即座に対応できるよう、厚い人員体制とチーム支援を継続します。					
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	17	2			〇目で見てわかるような構造になっている。 〇こどもの自立につながる構造になっています。	視覚的な支援（構造化）がお子様の自立に繋がっているとの声を重視し、特性に応じた環境設定をさらに洗練させていきます。					
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	19				〇清潔に心地よく過ごせる環境になっている。 〇いつも清潔です。	常に清潔で衛生的な環境を保ち、お子様が心身ともにリラックスして活動できるよう、日々の清掃と環境整備を徹底します。					
適切な 支援の 提供	5	こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	17			2	〇入ったばかりなので。 〇パーテーションをしたりなど、集中できるような支援している。 〇こどものことをよく見ていくと、いつも適切にご指導くださいます。 〇親が見えていなかった特性についてもアドバイス頂けて助かっています。	入職間もない職員への研修を強化するとともに、パーテーション活用等の環境調整を継続します。保護者様が気づかなかった特性への助言も、専門的知見から丁寧に行ってまいります。					
	6	事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	19				〇支援内容と合っていると思う。 〇自立に向けて支援プログラムが組まれていて、家庭でもまねしています。	自立に向けたプログラムを家庭でも再現できるよう、内容の共有をさらに深め、一貫性のある支援を目指します。					
	7	こどものことを十分理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、放課後等デイサービス計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	19				〇こどもの苦手・得意も理解し作成されている。 〇困っていることをすぐ相談でき、サービス計画へのフィードバックも早いです。	ニーズの客観的分析に基づいた計画作成を継続し、相談への迅速なフィードバックを通じて、常に最適な計画へ更新します。					
	8	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	18	1			〇宿題の見直しや水分補給を多めにするなど、具体的に設定されている。 〇親が不安に思っている時も、寄り添って一緒に考えてくださるので、とても感謝しています。 〇沢山のガイドラインに沿ったプログラムが作られており、いつもすごい！と感動しています。	本人・家族・移行支援の各項目を具体的に設定し、保護者様の不安に寄り添う姿勢を大切にしながら、質の高い支援を提供します。					
	9	放課後等デイサービス計画に沿った支援が行われていると思いますか。	17	1		1	〇現時点でまだ1回しか行けてないので分かりません。 〇計画に沿って支援が行われている。 〇学習、運動支援、お友達とのコミュニケーションも上手になっています。	学習・運動・コミュニケーションの各面で成果を実感いただけるよう、計画に基づいた着実な支援を遂行します。					
	10	事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	17			2	〇現時点でまだ1回しか行けてないので分かりません。 〇固定されないようにプログラムが設定されている。 〇子どもたちが飽きないように、でも継続してやっていけるように工夫していただいています。 〇イベントに向けての練習などもあり、楽しく活動しています。	継続性と新鮮さを両立させ、お子様が飽きることなく、楽しみながら挑戦できるイベントや活動を企画し続けます。					
	11	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会がありますか。	10	3	2	4	〇他の教室と交流が回れている。 〇空手体験などで他の教室のお友達との交流もあります。	他教室との交流（空手体験等）に加え、地域の児童館や交流イベントへの参加機会を検討・周知し、社会性の広がりを支援します。					
保護	12	事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	18	1			〇丁寧な説明があった。 〇いつもプログラムなどについて丁寧な説明があります。	契約・利用開始時の丁寧な説明を徹底し、不明点がないよう常に配慮します。					
	13	「放課後等デイサービス計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	19				〇担当者会議の時に支援内容の説明がなされている。 〇面談の際説明がありました。	面談や担当者会議の場を最大限に活用し、支援の方向性について深い共通理解を図ります。					
	14	事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	19				〇子育て勉強会など家族参加型のイベントもある。 〇子育て学習会はとても勉強になり、気持ちもラクになりました。 〇学習会が定期的に行われており、困り感が減っています。	好評をいただいている子育て学習会等を定期開催し、保護者様の心理的負担の軽減と情報提供に努めます。					
	15	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達状況について共通理解ができていますか。	19				〇連絡帳・ラインで連絡し、理解できていると感じている。 〇先生方と気軽に情報交換できており、頼もしく感じています。	連絡帳やLINEを活用した密な連携を継続し、お子様の小さな成長や健康状態をリアルタイムで共有します。					
	16	定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	18	1			〇行われています。 〇学校や事業所で定期的に行われています。	学校や家庭とも連携しながら、定期的・随時の面談を通じて、多角的な支援アドバイスをを行います。					

者 へ の 説 明 等	17	事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	18	1		○子どもが自分で行動できるように、繰り返し支援がされている。 ○決して否定されることなく、よりそって頂いています。	お子様を否定せず、寄り添い、自立を促す「共感的アプローチ」を全職員の基本姿勢として徹底します。
	18	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	16	2	1	○親子レクリエーションもあり、支援ができています。 ○なかなか用事で参加できていませんが行われています。	親子レクリエーション等の機会を継続し、保護者同士の交流や、きょうだい児も含めた家族全体の支援を推進します。
	19	子どもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、子どもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	19			○何かあったら、相談している。 ○困ったことがあった場合、その都度相談できていて助かっています。	些細なことでも即座に相談できる体制を維持し、迅速かつ誠実な対応を心がけます。
	20	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	19			○急な体調不良などラインで常に連絡できていると感じている。 ○何でも話せていて、LINEでも対応頂いています。	LINE等のツールを有効活用し、急な体調不良時や日常の細かなやり取りにおいて、心理的ハードルの低いコミュニケーションを継続しています。
	21	定期的な通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されていますか。	19			○みらいのブログなど発信されていると感じる。 ○お便りなどもよく頂いています。HPも活動の様子がよくわかります。	ブログやお便り等を通して、活動内容や自己評価結果を可視化し、透明性の高い事業所運営を行います。
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	19			○十分に留意されていると思う。 ○十分配慮されています。	プライバシーへの配慮を最優先事項とし、厳重な情報管理を継続します。
非 常 時 等 の 対 応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	19			○連絡帳やラインで実施したことをお知らせして下さっている。 ○定期的に一週間訓練されていて家族の誰より防災に詳しいです。	各種マニュアルを整備・周知し、お子様がご家族よりも防災に詳しくなるほどの実践的な訓練を継続します。
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	19			○定期的に行われていると感じる。 ○定期的に行われています。	様々な災害を想定した訓練を定期的に行い、いざという時の即応力を高めます。
	25	事業所より、子どもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	19			○行われていると感じる。 ○訓練を通し、子どももよくわかっているようです。	お子様の安全を第一に考えた計画に基づき、訓練を通してお子様自身も安全意識を高められるよう支援します。
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	18		1	○ライン・連絡帳で説明されている。 ○すぐに連絡や状況説明されています。	万が一の怪我や事故の際は、電話等で即座に状況を説明し、誠実に対応します。
満 足 度	27	子どもは安心感をもって通所していますか。	18	1		○安心して通えています。 ○生活の一部、心のよりどころになっています。 ○安心して通所しています。	事業所がお子様にとっての「心のよりどころ」であり続けられるよう、温かい居場所作りを継続します。
	28	子どもは通所を楽しみにしていますか。	17	2		○本人も楽しかったと報告してくれている。 ○今日は〇〇するんだよ！と教えてくれ、通所を楽しみにしています。	お子様が「今日はこれやるんだ！」と期待して来所できるよう、魅力的な活動を提供し続けます。
	29	事業所の支援に満足していますか。	19			○お世話になります。今回は評価表参考資料があったので以前は「わからない」が多かったんですが「はい」が増えました。具体的に何に取り組んでいるのかわかりやすかったです。 ○満足している。 ○みらいさんを通して大きく成長でき、これからの人生の基礎になったと思います。 ○いまの〇があるのはみらいのおかげととても感謝しています。切り替えが早く挑戦できるようになって、頼もしく思っています。	評価表の参考資料送付などの工夫を継続し、支援内容の「見える化」を図ります。お子様の成長の土台を作るよう、全力を尽くします。

事業所名		子ども支援室みらい 益城教室		公表日		2026年 3月 27日	
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
		環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	7	1	○活動内容に応じてスペースを分け、安全面に配慮している。静と動の活動エリアを分け落着ける環境を整えている。 ○平日は児発と放デイの支援の時間帯を分けている。
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	8	0			
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	7	1	○視覚支援（掲示物・写真・マーク）を活用している。1日の流れを掲示し、見通しを持てるようにしている。	○クールダウンする子どもの声が遮断できれば良い。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	7	1	○毎日の清掃や消毒を行っている。	○天井設定の冷暖房器具については定期的な点検があるとよい。	
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	8	0	○クールダウンスペースを設けている。パーテーションで環境調整をしている。		
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	6	2		目標設定や振り返りのミーティングを形式的なものにせず、現場職員の気づきが運営に反映される仕組みを強化し、組織全体で改善に取り組む文化を醸成する。	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	8	0			
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	8	0	○朝礼や昼礼で情報共有している。 ○昼礼で意見を聞いてもらえる。		
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	3	5		検討し、より信頼性の高い事業所運営へと繋げる。	
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	8	0	○内部研修を定期的実施している。外部研修へ参加している。 ○研修参加後の報告や情報共有の機会を設けると、職員間の知識・技術の共有を促進できると考える。 ○動画視聴が勉強になります。 ○月1の全体会等		
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	8	0			
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	7	1		日々の観察に加え、標準化された発達検査やアセスメントツールをより積極的に活用し、個々の特性に基づいた根拠のある支援計画を作成する。	
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	8	0			
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	8	0			
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	7	1	○希望されるご家庭には発達検査を実施している。	日々の観察に加え、標準化された発達検査やアセスメントツールをより積極的に活用し、個々の特性に基づいた根拠のある支援計画を作成する。	
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	8	0			
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	7	1		一部の職員に頼らず、チーム全員でプログラムを検討する体制を整えます。また、「その日の気付きはその日のうちに」共有できるよう、終礼時間の確保と効率的な記録体制を構築する。	
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	8	0	○グループ活動は週単位で変更している。長期休暇中には、季節行事や普段できない体験を入れている。		
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	8	0			

	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	8	0	○職員間で役割分担を明確にしている。個別対応が必要な利用者には手厚く関わる体制を整えている。 ○送迎、学習担当の確認を行っている。 ○昼礼で行う	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	6	2	○翌日の朝礼で振り返りを行っている。 ○翌日にしている。緊急性のあるものだとその都度共有している。 ○翌日の朝礼で行っている。	一部の職員に頼らず、チーム全員でプログラムを検討する体制を整えます。また、「その日の気付きはその日のうちに」共有できるよう、終礼時間の確保と効率的な記録体制を構築する
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	8	0		
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	8	0		
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせさせて支援を行っているか。	8	0		
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	8	0	○主体性を育てる場が保障されている。(机でほっとタイム) ○あまり意思決定に声掛けをしないようにしている。	
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	8	0		
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	6	2	○児童が通っている学校との連携は行っている。	学校だけでなく、就学前の施設や児童発達支援センターとの情報共有を強化します。特にセンターからの助言やスーパーバイズを積極的に受ける機会を設け、支援の専門性を高める。
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	8	0		
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	7	1		学校だけでなく、就学前の施設や児童発達支援センターとの情報共有を強化します。特にセンターからの助言やスーパーバイズを積極的に受ける機会を設け、支援の専門性を高める。
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	6	2		
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	4	4		
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	0	8		施設内に留まらない活動を通じて、お子様が社会の多様な人々と触れ合う機会を創出し、地域社会全体で育ちを支えるインクルージョンの取り組みを推進する。
	33	(自立支援) 協議会等へ積極的に参加しているか。	6	2		協議会で得られた地域の福祉資源の情報や、行政の動向、他事業所の先進的な事例などを、ミーティングや内部研修を通じて全職員にフィードバックする仕組みを作る。
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	8	0	○送迎時や連絡帳、LINE等で日々の様子を共有している。	
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	8	0		自社でのプログラム開催が難しい場合でも、地域で開催されているペアレント・トレーニングの情報や、専門機関の紹介をより積極的に行い、保護者の皆様の「学びたい」というニーズに即座に応えられるようにする。
	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	8	0		
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	8	0		
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	8	0		
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	8	0		

保護者への説明等	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	7	1	○子育て学習会、親子レクリエーションなど。 ○年に1回親子レクリエーションを実施。兄弟児の参加も可。	親子レクリエーション等へのきょうだい児の参加をさらに促進し、家族全体を包み込む支援プログラムを企画する。
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	8	0		
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	8	0		
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	8	0		
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	8	0		
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	4	4		○地域住民も参加可能なマルシェを実施。 ○法人にて実施。
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	8	0		
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	8	0	○緊急連絡網あり。	
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	7	1		個人情報保護に十分配慮した上で、「緊急対応カード（アレルギー、服薬、発作時の対応をまとめたもの）」を全職員が即座に確認できる体制を再構築する。特に、てんかん発作などの緊急性が高い情報については、全職員への周知を徹底する。
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	8	0		
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	7	1		策定した安全計画の内容を保護者の皆様へより分かりやすく発信し、万が一の事態に対する備えを共有・可視化する。
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	7	1		
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	8	0		
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	8	0	○年2回虐待防止等の研修を行っている。	
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	8	0			